

水高 NIE 便り

No. 7
2019. 10. 18

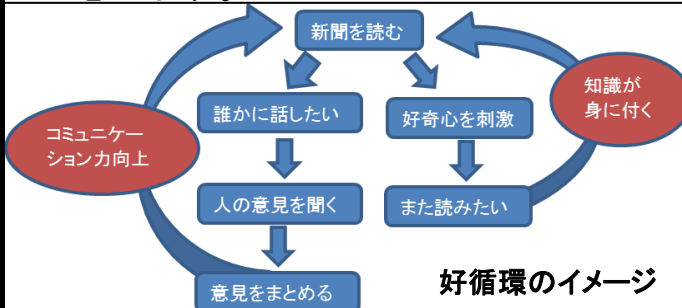
茨城県立水戸高等特別支援学校

第10回いっしょに読もう！新聞コンクール

日本新聞協会主催の「第10回いっしょに読もう！新聞コンクール」に、夏休みの宿題として生徒全員に取り組んでももらいました。

各自が気になる新聞の記事を、家族や友達に見せて、意見を聞いたうえで、自分の意見をまとめるこの活動をとおして、ご家庭では、親子の会話も生まれたことと思います。

新聞を読む活動は、好奇心を刺激するだけでなく、読む、話す、聞く、考えるといったコミュニケーション力の向上にもつながる好循環を生み出します。是非、ご家庭でも新聞の記事を話題に話す機会を設けてもらえればと思います。



皆さんの作品を応募したところ、参加率が高かったため、優秀学校賞に推薦されました。これは、本県ではここ数年なかったことのようにです。審査結果は11月。楽しみです。

新たに購入した新聞掛け
⇒



NIE研究指定校の助成金で、新しい新聞掛けを買いました。今までは1階のNIEコーナーにはありましたが、2階はテーブルに新聞を並べていただけでした。これで2階のNIEコーナーにも新聞掛けを設置することができましたので、新聞が読みやすくなると思います。どんどん活用してもらえればと思います。

気になる記事コーナー7

スマホ抜き食事「楽しさ増」

高校生1700人調査

家庭での食事中に、スマートフォンを利用しないというルールを守っている高校生は、ルールがない生徒よりも「食事が楽しい」と感じていることが、熊本県立大の坂本達昭准教授（栄養教育学）らの調査で分かった。

調査は昨年9月、熊本県と福井県の公立高校3校ずつに協力してもらい、1、2年生の計1718人から回答を得た。

調査では、家庭での食事中のスマホ利用に関して調べた。食事中のスマホ利用に関して、ルールがない家庭の生徒が楽しさを感じる割合を1

とした場合、「ルールがあって守っている」という男子生徒が2.24、女子生徒が1.69となった。

また、家庭での食事中、スマホを利用しない生徒が楽しさを感じる割合を1とした場合、「ほぼ毎日、食事中にスマホを利用している」という男子生徒が0.93、女子生徒が0.49だった。女子は半分以上となり、男女間で差が見られた。

坂本准教授は「（家族で食卓を囲む）『共食』の頻度だけでなく、食べ方についても考慮する必要がある」と指摘している。

近年、スマートフォンを常に手放せないスマホ中毒やスマホ依存症と呼ばれる人たちは、「歩きスマホ」や「ながら運転」が社会問題になっていることから分かるように、中・高校生に限らず、大人にもいるようですが、今回の記事は、食事中のスマートフォン使用に関する高校生の調査結果についてです。

熊本県立大学（坂本達昭准教授）が、昨年9月、熊本・福井両県の高校生1718人に調査した結果、食事中のスマホ利用に関して、「ルールがない家庭の生徒」より、「家庭のルールがあって守っている生徒」の方が、男子で2.24倍、女子で1.69倍、食事が楽しいという結果が出たそうです。思わず「ほんまでっか」と言ってしまうそうですが、毎日の食事を楽しく食べるためにも、各ご家庭で、食事中のスマホ利用のルールを、是非、決めてみてはいかがでしょうか？

読売新聞 9月28日（土）の記事